

農を愛する人たちの

月刊 **愛農**

“千年続く村づくり” 愛農会 70 周年報告

4

2016

| AINO |



二十四

にしゅうしせつき

—日本古来の暦を味わう—

節気

四月

清明(せいめい)／四日

穀雨(こくう)／二十日

土や木々からはやわらかな緑が萌え出で、
まるですべてのいのちが

新しく生まれ変わったよう。

まだ少し冷たい透明な空気に、

清らかな生命力があふれる、

そんな季節が「清明」です。

大地を潤す春の雨とともに

訪れるのが「穀雨」。

さあ種をまく時です。

日々強くなる日差しのもと、

人も田畑もダイナミックに動き始めます。

清明

初候 玄鳥至(つばめきたる)

次候 鴻雁北(こうがんかえる)

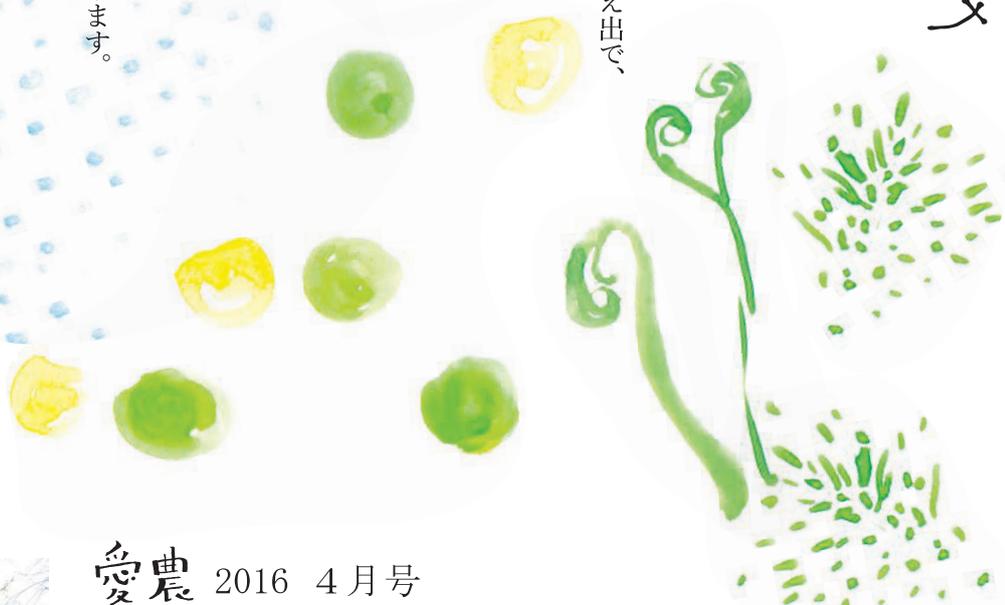
末候 虹始見(にじはじめてあらわる)

穀雨

初候 葭始生(あしはじめてしょうず)

次候 霜止出苗(しもやみてなえいずる)

末候 牡丹華(ぼたんはなさく)



愛農 2016 4月号

二十四節季 ～日本古来の暦を味わう～

- 01 巻頭言／石井 康弘 70周年のさわやかな風を帆に受けて
- 02 あいのうシンポジウム
- 05 あいのうフェス
- 07 70周年 協力企業・団体、実行委員紹介
- 08 年表
- 10 電力自由化
- 16 樋田先生
- 20 震災とアジア学院
- 25 愛農高校の窓
- 28 ウォッチング あいのうし協力呼びかけ
- 29 あいのう俳壇
- 30 愛農ファミリーのページ・4月
- 32 編集後記
- 33 料理

| 今月の表紙 |

3月12日・13日に愛農会70周年記念事業「あいのうシンポジウム」と「あいのうフェス」が開催されました。愛農ヶ丘で行われたフェスにもたくさんの方が訪れ、いいお天気の下たくさん笑顔があふれていました。表紙の写真は愛農高校生が案内する校内見学ツアーの一幕です。

このページでは今月から1年間、1年の季節の移り変わりを太陽の動きに従って24にわけた日本古来の暦、24節気をお伝えしていきます。24に分けられた暦はそれぞれさらに3つに分けられています。季節を伝えるそのことばに触れるたび、日本人の感性の豊かさを感じ入ります。この連載を通して移ろいゆく自然にみなさんの心身が開かれますようにと願いつつ…。一年間よろしく願い致します。

70周年のさわやかな風を帆に受けて

石井 康弘 (いしい やすひろ 愛農会 前会長・現理事)

愛農会七十周年記念事業に多くの方々のご参加をいただき、感動を共有できましたこと、ただただ感謝申し上げますばかりです。本当にありがとうございます。

今から一年半ほど前にさかのぼりますが、実行委員長を池野雅道さんをお願いして実行委員会が発足し、第一回実行委員会に出席させていただいてた一つお願いしたことは「千年続く村づくりをこの事業のテーマにしてください」ということでした。この時より毎月一回の実行委員会を開いて準備を進めていただき、手探りで進みながら事業が少しずつ形になっていくさまはたいへん新鮮でした。サブテーマがくそれでも私たちは種をまかくくに決定し、シンポジウムとフェスの二本立てで行うこと、シンポジウムでは基調講演に加えて七つの分科会を設定し、愛農会理事が中心になってその内容を作り上げていくことが決定されていきました。このように器づくりをしていた役割が明確になってきた段階で分科会の中身づくりが始まりました。それぞれの直面する問題を深く掘り下げ、多くの方々に興味を持って参加していただき満足していただける内容にするために多大

巻頭 二頁

な時間と労力を投じましたが、すべてが大きな宝となり、今後の愛農会の働きに生かされていくことを期待しています。

二日目には一日目の各分科会の報告を持ち寄って「どんな種をまくのか」をテーマに話し合いました。ここでの全体に通じるキーワードは「いのち」だったように思います。暮らしをテーマにした分科会の報告者アーサー・ビナードさんは「平和」という言葉がさまざまな政治的意図をもつて使われていることを指摘されたそうですが、さまざまな場で使われる「平和」ということばに「いのち」のものをあてはめてみますとその真偽は明らかです。愛農会が祈り求める「平和」はいのちを第一とするものです。全体会の最後に村上真平さんは、栽培方法の別に

かわかわらず、そこにいのちを大切に支えるという思いがあるならばそれは本物の農業であり、その取り組みは平和につながると思われました。消費者と生産者が手を携えて本物の農業を通して隣人愛を実践することが愛農運動であり、それが平和へとつながるのだと思います。

その後の総会をへて臨時理事会において村上真平さんが新しく会長に選定されました。七十周年を機に新会長のもと、成長した若き理事たちを中心に「いのち」の種がまかれることを心から望んでいます。



村上真平（愛農会会長）



田中優さん



答え手 田中優

1957年東京生まれ。地域での脱原発やリサイクルの運動を出発点に、環境、経済、平和などの、さまざまなNGO活動に関わる。

2012年末に岡山に移住。2013年5月、自宅と電力会社をつなぐ電線をカットし、電力会社には頼らず太陽光パネルと独立電源システムにより電気を自給する「オフグリッド生活」を始めた。現在「未来バンク事業組合」「天然住宅バンク」理事長、「日本国際ボランティアセンター」理事、「ap bank」監事、「一般社団法人 天然住宅」共同代表、「自エネ組」相談役を務める。横浜市立大学、恵泉女学園大学の非常勤講師。公式HP 田中優の持続する志 <http://www.tanakayu.com/>



聞き手 村上真平（愛農会会長）

愛農高校11期生。福島県出身。1982年にインドのガンディー・アシュラムに滞在したのをきっかけに、バングラディッシュとタイで自然農業の普及と持続可能な農村開発のNGO活動に関わる。2002年に帰国し福島県飯館村に入植。「自然を収奪しない農の在り方と、第三世界の人々を搾取しない生活の在り方」を探求し実践していたが、2011年3月15日の福島第一原発の爆発事故を受け、三重県伊賀市に避難。????には三重県津市美杉町の耕作放棄地を開墾し、なな色の空農場を開設。同地で農業を行うとともに、アジアの農民団体の連合体AFA（持続可能な農業開発のためのアジア農民の会）議長として世界中を飛び回り政策提言活動に参加する。



電力自由化対談 ②

2016年4月から始まる電力自由化について、自エネ組合（自給エネルギーチーム）の相談役も務める田中優さんに話を聞いた。（後編）



―福島から岡山に移住された建築家の大塚尚幹さんと優さんで、「みんなでエネルギーを自給しよう」と「自工ネ組」というのを立ち上げて、オフグリッドのためのキットを販売していますよね。この自工ネ組を通して、今までに何軒くらいがオフグリッドを実現しましたか？

たぶん三十件くらいかな。

―バッテリーはフォークリフトのバッテリーだと聞きましたが。

そうですね。鉛の重たいバッテリーなんだけど、それを再生できる技術が発達したので、たぶん二十年くらいは何度も何度も再生して使えますね。

―何をすると再生できるんですか？

バッテリーというのはサルフェーションといって、電極のところに硫酸が析出して張り付くと寿命が来るんだけれど、その硫酸をきれいに落としちゃう高分子の粉があって、その粉を二年に一回くらい入れるだけなんです。

―それは費用としてはいくらくらいかかるんですか？

一台あたり千八百円なので、二十台置いていたら三万六千円くらいかな。

―そのフォークリフトのバッテリーは普通の車についているバッテリーとどんな違いがあるんですか？

まったく同じです。それが縦長になつていてというだけですね。もう一つの違いは、バッテリーに充電された電気を何%まで使えるかという割合です。バッテリーの深さと呼んでいるんだけど、そこに違いがでます。

―どちらがいいんですか？

フォークリフトなどに使っているほうは、今だと入れた電気の七割まで使えます。従来のものは五割まで。だからけっこう大きな差がでる。大塚尚幹さんは中国製の新品を輸入して供給しているけど、それも七割まで使えるものだね。

―フォークリフトのバッテリーならずい

ぶん重いだろうけど、家に設置するから動かす必要はないし、どこかに鎮座させておけばいいんだからね。

そもそのスマートグリッドの考え方は、電気自動車に電気をプールしちゃおうということだったんだよね。町のなかで電気が足りなくなったら電気自動車から引っこ抜いて、余ったら電気自動車に放り込んでおく。

―なるほどね。電気自動車が蓄電池つてことでもあるんだね。

そういうことです。車の走行時間というのは実は一日平均四十五分なんです。だから一日のうち二十三時間十五分は駐車してある。だったらそれをバッテリー代わりにしちゃえば、経済的にも社会的にも効率がいいというふうに考えるんです。

―スマートグリッドというのは、パソコンを使って、余っているところの電気を足りないところに融通するというようなシステムですね。

そうそう。常に需給を見ながら、こ

ちらが余っているからあちらに流して、というシステムを作るといことだね。

―そうすると送電線が自由化されたとして家の屋根や工場などあちこちで発電をしているようなコミュニティがその中の送電線を買ってそれらをつなげば、そのスマートグリッドを実現できるということですね。

そういうことですね。そういうふうになつていききたいのに、今の政権は送電線の自由化を遅らせて、しかも自由化のあとに託送料金の中に原発の料金を隠して乗せて、原発を温存しようなんてことをやっているわけですね。いずれ電気は高くなりますよ。

―そのへんは政治の中で明らかにされないんですか。

どうだろうなあ。それは論点にすらなっていないね。生協などの事業者がいろいろ文句を言っているんだけど、自由化で小売をしようとする業者の中では、生協のようなスタンスのところは少数派だからさ。ほとんどの業者は、

自分のところの余った電気を売れば
いいや、というくらいのことだから、
原発についてはぜんぜん問題にして
いないね。

—原発を使うということは、自明の前
提ということですね。

そうなっていますね。

—安倍はもういちど福島原発のような
事故が起こったら考えるんですかね。

いや、チェルノブイリの時には「日
本でもチェルノブイリみたいな事故が
起ればみんな目をさますんだ」なん
て言われていたけど、福島原発が事故
を起こしてもこの始末だからね。そん
なことが起こってもたぶん事態はあま
り変わらないと思うな。でもチェルノ
ブイリのデータと照らし合わせて考えたら、
今年の終わりが来年くらいから福島原
発の事故の影響でもものすごく病気が増
えるはずなのよ。その時に少し変わる
かなあと思っているんです。チェルノ
ブイリで見ると、事故から六年後に心
臓病の発生率が九五%だからね。

—九五%増えたということ？

いや、九五%の人が心臓病になった。

—え!?!その地域にいた人が?

そう。チェルノブイリでは年間被ば
く量が五ミリシーベルトを超えるとこ
ろでは強制移住だから、人が住んでい
るところは五ミリシーベルト未満なの
よ。そのレベルで九五%の人が心臓病
になるということになっちゃうね。

—福島では年間被ばく許容量が二〇ミ
リシーベルトと決められてしまったため
に、五ミリシーベルト以上のところに百
五十万人くらいの方が住まわされてい
るんですよ。最近では下がってきたとい
っても、少なくとも事故後二〜三年はね。
これはどうなるんですかね。

だから僕はチェルノブイリと同じく
らいのことが起こるんじゃないかと
思っているんです。ただひとつ違うの
は、チェルノブイリの土壌はやせてい
たので作物がセシウムをどんどん吸収
したの。でも日本の土壌は豊かだから
作物への移行が少ないの。だから食べ
物による内部被ばくという点を考える
とそのぶんの差は出るとは思ってるん

だけど。

—僕が住んでいた飯館村は今年の末に
帰村宣言をすと言っているんですよ。
このまえ飯館の僕の家の周りを除染した
というので、除染前と除染後の線量を
送ってきたんです。そうしたら僕の家
の倉庫の周り、ほとんどが一〜二マイク
ロシーベルト/時という値でした(二マイ
クロシーベルト/時であれば年間被
ばく量は八・七六ミリシーベルト/年)。
それも地面から一メートルのところ
で測定したデータですよ。

従来が〇・〇三三だから、三百倍増
えたということですからね。

—飯館村の線量マップも送られてきたん
ですが、山に入ったらとんでもないので、
山はぜんぶ外されていました。家がある
ところだけ道路に沿ってちよこちよこ
と数字があるだけです。

悲しいことだけど、今年の終わりが
来年くらいから病気が増えてくるだろ
うから、それで見直すという可能性が
あるんじゃないかと思っっているだけ
だね。実際チェルノブイリでも多くの
人が引越したのは子どもたちが病気が



電力自由化対談

になつてからなんです。だから事故後六年が経つてからみんな移住を始めてるんだよね。

―福島県内に行くと、年間被ばく量一〇〇ミリシーベルトもぜんぜん問題ないつて言っているんですよ。一〇〇ミリシーベルトのガンの発生率は一日に二十本たばこを吸う人の発生率より少ないと言っています。そういう情報を福島県庁が出してきていますからね。

―そうね。でも世界中で喫煙者が減っているにも関わらず肺がんは増えているの。その発生率と比例して増えているのは、原発から流すクリプトンガスの大気中濃度なんだよね。

―安倍政権はこうしたことをやっきになつて隠して、隠すどころか開き直つて、こんなものぜんぜん問題ないと言い続けていますからね。

―そして汚染したものを日本中に移動させちゃつてるからね。そうすること他の地域と差がでなくなつちゃうし、そうしたら「これは全国的な傾向であつて福島原発のせいではない」つ

て言えるもんね。

―放射性廃棄物も昔は一〇〇マイクロシーベルト以上のもは隔離の対象だったのが、今では八〇〇マイクロシーベルト以下ならどこにでも置けるようになりましたよね。そうすると産廃処理場で働いている人も危ないですね。

―被害は遅れて出るからさ。あとになつて気付いても後の祭りだよ。

―とにかく政治状況は暗いですね。

―暗い。そのおかげで未来も暗い。

―というよりも、あの福島原発事故を経験しても、国民はやっぱり自分の目の前のお金なんです。

―そうね。でもこの五年間で日本人もすごく貧しくなつたから。だから目先のお金に飛びつくことをあながち悪いと批判もできないよね。安倍政権になつてから本当に収入が減つてるからさ。

―ところで、もういちどオフグリッドに

話しを戻して、優さんから見て、オフグリッドの未来というのはどういうところにありますか？

―オフグリッドでいちばん費用がかかるのはバッテリーなんですけど、今バッテリーが急激に進化して、すごい勢いで値段が下がってきてるの。リチウムイオンバッテリーとかね。

―ほお。



世界で電気自動車にしようという方向性があちこちで出されたのでさらに競争が激しくなる。そうするとバッテリーがぐんぐん安くなるので自宅でオフグリッドもそんなに難しくなくなってくるだろう。十年電気料金を払い続けるのと同じくらいの額でオフグリッドができるならオフグリッドのほうが良いと思う人は大勢いるだろうから、もう少し値段が下がってくれば思ってる。

以前飯館にいたとき太陽光発電を入れたいと思っていたんですよ。それでいろいろ調べたら、僕の家ではだいたい四キロワットあったらいいということだったんですけど、オフグリッドの場合はどういう計算にはなりますか。

さっき聞いた電気料金だと、三キロワットあれば足りるかな。パネルで言うと十二枚だね。日当たりがよければ畳十二枚分。

価格的にはどうですか？

ずいぶん下がりました。三キロワットのパネルが、出始めたころは六百万

したんだけど、今では六十万を切ってる。

飯館で太陽光発電を入れようと思っ
て契約までこぎ着けようというときに原
発事故が起こったんですけど、その時は
四キロワットで三百八十万円くらいだっ
た気がします。

そこから見てもずっと下がってますよ。

オフグリッドは自家発電した電気を
バッテリーに貯めて使うわけですよ。

そのバッテリーは三日分くらいの電
気を貯められる容量のものがいいの。

じゃあたとえば僕がさっき言ったくら
いの電力だとどのくらいですか？

月々の電気代が五千円くらいという
ことは、月々二〇〇キロワットくらい
だから、三十日で割ると、一日の消費
電力が七キロワット、だとすると、二
十一キロワットのバッテリーが必要に
なるね。重たい大きいフォークリフト
のバッテリーが二十一個。それじゃあ
たいへんだけど、一日の電力消費量を

二キロとか三キロくらいに下げちゃえ
れば自給は難しくないかな。

一ヶ月五千円というのは一日七キロも
使っているんですね。

そうだね。でも省エネ商品をうまく
使えば電力消費はものすごく減るから
省エネ商品に変えちゃうのが先だね。

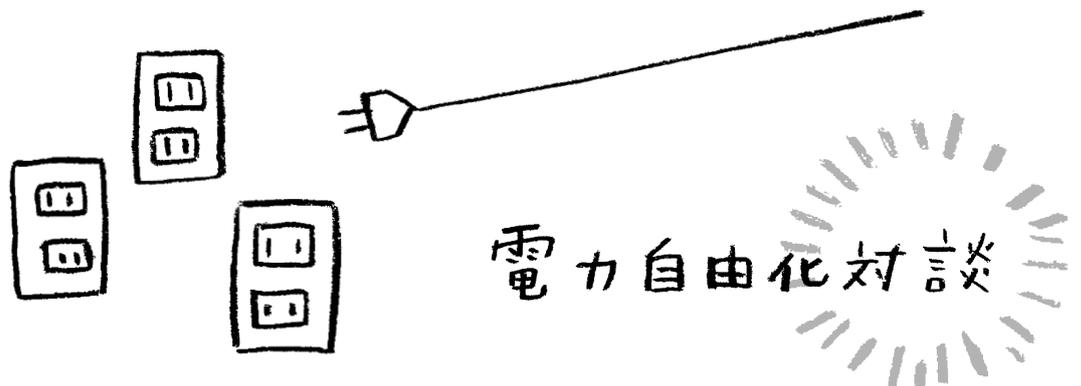
それにしても自由化に関してはなか
か明るい話はないですね。

うんないね。残念ながら本当に。

言い切りましたね(笑)

だつてないもの。自給の方向に進め
ていくのであればまだ光は射すけど、
そうじゃないと、政府のいいなりで好
き勝手にやられちゃうからね。電気を
買っている限りありとあらゆる場所
にこっそり原発のコストが入り込むよ
ね。

オフグリッドは、オフグリッドにする
人がたくさんできてきて、それらをつなげ
てスマートグリッドということになれば
ますます活きるし、やりやすくもなるん



ですよね。

うん。そういう意味ではオフグリッドはどんどん広がっているし、自由化よりはオフグリッドのほうがまだ可能性があるな。

—やっぱりこれからの方向性はね、自給ですよ。

そうですね。そう思う。

—僕は農業のほうで自給自足をしているけど、この方向はやることそのものが

楽しいからね。お金はあまり儲からない

けど、お金が少なくても生きていける生き方を考えないと。食糧も電気も同じなんだね。

まさにそっくりですね。電気も食糧も自給ですよ。僕もそう思っていますので。

—じゃあお互い自給でがんばって、そして同時に楽しんでいきましょう。今日は本当にありがとうございました。

(おわり)

